

35 野球

事故防止のための4カ条

- 1 用具や設備の破損による事故を防ぐために、点検や管理を怠らぬで行う。
- 2 イレギュラーバウンドによる事故を防ぐために、練習途中でも、随時グラウンドを整備するなど、環境面の安全対策に万全を期す。
- 3 打撃練習中の打球直撃による重大事故を防ぐために、ヘッドギアの着用や防球ネットの適切な配置などを徹底させる。
- 4 他部活とのグラウンド共用による事故を防ぐために、練習方法の工夫や危険回避対策の充実に努める。

日頃の練習や競技会に潜む危険因子

- 1 用具や設備の破損による事故の危険性
 - 金属疲労により亀裂の入ったバット又は歪んだバットを使用すると、打撃時にバットが折れて飛んだり、飛び散った破片による失明や視力低下といった事故の原因となる。
 - ヘルメットは一度衝撃が加わると、衝撃吸収機能が低下する。衝撃を受けたヘルメットの継続使用は事故の危険性が高まる。
 - 防球ネットに破損箇所があると、その穴を抜けて打球が人に直撃するなど事故の危険性が高まる。
- 2 環境面の不備による事故の危険性
 - グラウンドが荒れていたり、小石や異物が落ちていたりすると、イレギュラーバウンドが発生し、ボールが顔面に直撃するなどの重大な事故が起きやすくなる。
 - 金属の支柱やコンクリートの壁などがむき出しになっている場合、打球を追った選手が激突して負傷や骨折、時には大事故につながることもある。
- 3 打撃練習中の打球直撃による事故の危険性
 - 打撃練習中、投手に打球が直撃する事故が多く、特に頭部や顔面に打球が当たった場合には重大な事故につながりやすい。
 - ティーバッティングでトスをする選手に打球が直撃する事故も多く、至近距離のため大事故につながることもある。
 - 打撃投手以外にも、他の練習をしている選手に打球が直撃して負傷する場合がある。
- 4 他部活の生徒に起こる事故の危険性
 - 打撃練習やノックのボールが他部活の練習場所に飛び込んで直撃したり、そのボールを追った選手が接触して事故が起きることがある。
 - 他部活の練習場所に転がったボールに、生徒が気付かずに踏んでしまい負傷することがある。



事故防止のための安全対策

- 1 用具に関しては定期的に点検して破損がないかを確認し、不備がある場合には使用を中止するなど、指導者が適切な管理をする必要がある。
- 2 個人の用具は責任をもって手入れを行わせることが事故防止対策に有効である。
- 3 日頃からしっかりとグラウンドを整備し、危険な箇所がないように安全な練習環境を維持することが大切である。土や砂の補充、定期的に塩化カルシウムを撒布することも効果的である。
- 4 打撃練習中の事故は重大事故につながりやすいので、特に安全対策を徹底する必要がある。
 - バットを振る際にはその範囲内に人がいないか確認する。
 - 打撃投手にはヘッドギアやヘルメットを着用させる。
 - 打球直撃を防ぐために防球ネットを適切に配置する。L字型ネットには三角ネットを装着する。
 - 複数ヶ所でフリーバッティングを行う場合には、投手は同時に投げない。
 - ピッチングマシンを操作する選手も必ずヘルメット、マスクを着用する。
- 5 他部活の生徒を事故に巻き込まないようにするためには、練習時間の重複を避けるなどの練習計画の見直しや、打球方向を変えるなどの練習方法の工夫が必要である。また、日頃から打球が飛んだときに声を出して知らせるなどの危険回避行動を徹底させておくことも有効である。